

## ご利用案内



## アクセス

- JR「三ノ宮」、阪急・阪神「神戸三宮」、ポータライナー・地下鉄（西神・山手線）「三宮」から南西へ徒歩約10分
- 新幹線「新神戸」から神戸市営地下鉄（西神・山手線）で「三宮」下車
- 神戸空港からポータライナーで約18分、「三宮」下車
- JR、阪神「元町」から南東へ徒歩約10分
- 地下鉄（海岸線）「旧居留地・大丸前」から南東へ徒歩約8分

## 利用案内

開館時間：午前9時30分～午後5時30分  
（入館は午後5時まで）

※特別展開催時の金・土曜日は  
午後7時30分まで開館  
（入館は午後7時まで）

休館日：毎週月曜日

（ただし、月曜日が祝日または休日の場合は開館し、翌平日に休館）  
※年末年始のほか、整備休館など臨時に休館及び開館することがあります。

※詳細は右記のホームページか、博物館までお問い合わせください。

## 展覧会情報 インド近代絵画の精華 ナンダラル・ポースとウペンドラ・マハラティ



ナンダラル・ポース「舟遊び(クリシュナとラーダ)」  
（ニューデリー国立近代美術館蔵）

日印国交樹立70周年を記念し、インド近代絵画の開拓者で日本とも交流のあった、ナンダラル・ポースとウペンドラ・マハラティの作品25件を展示。



神戸市立博物館は、昭和10年（1935）に建築された旧横浜正金銀行神戸支店を増改築し、昭和57年に開館しました。御影石の外装を施した古典主義様式の建物で、平成10年（1998）に国の登録有形文化財（建造物）になりました。

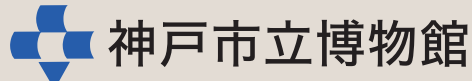


Twitter・Facebook @kobemuseum  
Instagram kobemuseum



神戸市立博物館  
公式ホームページ

神戸市立博物館だより No.122  
発行年月日：令和4年（2022）9月30日



〒650-0034 神戸市中央区京町24番地  
TEL.078-391-0035 FAX.078-392-7054  
https://www.kobecitymuseum.jp/

## 2013

特別展 中国 王朝の至宝 2/2-4/7  
臨時閉館 4/8-9/27  
特別展 ブーシキン美術館展 フランス絵画 300年 9/28-12/8  
入館者数 900万人 11/28  
館外展示 和ガラスのきらめき—びいどろの光・ギヤマンの粋 長崎歴史文化博物館 4/6-5/26  
館外展示 視覚革命!異国と出会った江戸絵画—神戸市立博物館名品展—九州国立博物館 7/17-9/23  
館外展示 国宝・神戸市桜ヶ丘出土銅鐸展 九州国立博物館 7/17-9/29  
館外展示 神戸市立博物館所蔵 絵画セレクション—懐かしき神戸のおもかげ— こうべまちづくり会館 8/1-8/20  
新収品：石崎融思「長崎港図」など

## 2014

特別展 ターナー展 英国最高の風景画家 1/11-4/6  
特別展 ボストン美術館浮世絵名品展 北斎 4/26-6/22  
ギャラリー 絵画コレクション展 6/28-8/17  
特別展 ギヤマン展—あこがれの輸入ガラスと日本 7/5-9/15  
南蛮美術企画展 池長孟が愛した南蛮美術 7/5-8/17  
ギャラリー 上川庄二郎鉄道錦絵コレクション名品展 8/19-10/5  
古地図企画展 伊能図の世界—館藏品一挙公開— 8/23-9/15  
10月よりSNS開始。  
特別展 メトロポリタン美術館古代エジプト展—女王と女神 10/13-1/12  
新収品：「紅塵荘関係資料」⑧「地図皿コレクション」⑨など

## 2015

特別展 チューリヒ美術館展 印象派からシュルレアリスムまで 1/31-5/10  
ギャラリー 絵画コレクション展I 5/16-7/12  
特別展 ブラハ国立美術工芸博物館所蔵 耀きの静と動 ポヘミアン・グラス 6/6-8/30  
受贈記念古地図企画展 南波松太郎旧蔵コレクション 地図皿の華 6/6-7/12  
ギャラリー 絵画コレクション展II—特集 川西祐三郎— 7/14-9/13  
南蛮美術企画展 美術セレクション animal 編—聖フランシスコ・ザヴィエル像公開とともに 7/18-8/30  
特別展 大英博物館展—100のモノが語る世界の歴史 9/20-1/11 ①  
新収品：神原浩銅版作品、井茂圭洞氏書作品など

## 神戸市立博物館開館40年

## ～この10年を振り返る～

## 2016

入館 1,000万人目 1/11  
特別展 須磨の歴史と文化展—受け継がれる記憶— 2/6-3/21 ②  
企画展 四季山水図屏風重要文化財指定記念 太山寺展 2/6-3/21  
特別展 我が名は鶴亭—若冲、大雅も憧れた花鳥画!? 4/9-5/29 ③  
ギャラリー 受贈記念 井茂圭洞の書 4/9-5/8  
南蛮美術・古地図企画展 西洋との出会い 4/9-5/29  
ギャラリー 絵画コレクション展 画家が見た風景 5/10-6/12  
特別展 ボストン美術館所蔵 俺たちの国芳 わたしの国貞 6/18-8/28  
特別展 松方コレクション展—松方幸次郎 夢の軌跡— 9/17-11/27  
特別展 古代ギリシャ—時空を超えた旅—12/23-4/2  
新収品：伏山筆「海棠牡丹寿帯鳥図」⑩「塩田村絵図」⑪など

## 2017

特別展 遙かなるルネサンス 天正遣欧少年使節がたどったイタリア 4/22-7/17  
特別展 開国への潮流—開港前夜の兵庫と神戸— 8/5-9/24  
南蛮美術・古地図企画展 絵画と地図に見る日欧交流 8/5-9/24  
ギャラリー 版画家の絵と版画／彫刻家のデッサンと彫刻 9/30-10/22  
特別展 ボストン美術館の至宝展 東西の名品、珠玉のコレクション 10/28-2/4  
新収品：神戸港写真など

## 2018

リニューアル工事休館 2/5-  
特集展示 国宝銅鐸絵画 九州国立博物館 7/10-9/2  
新収品：「文久遣欧使節のハーグでの国王訪問式典における式辞を掲載したポスター」⑩など



今から10年前の平成24年（2012）秋には、開館30周年記念特別展のひとつとして、「マウリッツハイス美術館展」が開催されていました。それ以降、開館40年を迎える今年までの当館のあゆみを紹介いたします。  
この10年館、2018年から翌年にかけてのリニューアル工事などによる閉館期間があり、2020年にはコロナ禍により特別展が中止になるなどの不運もありましたが、2013年の11月に総入館者900万人、今年4月に1100万人を達成しました。「ボストン美術館浮世絵名品展 北斎」「チューリヒ美術館展」「大英博物館展—100のモノが語る世界の歴史」など人気の特別展に加え、「我が名は鶴亭」「須磨の歴史と文化展—受け継がれる記憶—」など、当館の所藏品や神戸市の文化財をテーマとした展覧会でも好評をいただきました。

博物館の収藏品についても、広い分野の作品・資料が加わった10年でした。これら館藏品を紹介するためのコレクション展示室の新設を含む、開館以来初めての大規模なリニューアルが2018年から翌年にかけて行われたのも、この10年の大きな出来事でした。SNSの開設やHPの刷新などインターネットでの展開、台湾での所藏品展の開催など、新しい活動領域を開拓した10年でもありました。  
次の10年、博物館にとって輝かしい半世紀の記念すべき年を迎えられるよう努めます。

## 2019

リニューアル工事休館 -11/1  
公式HP刷新、コレクションページ的大幅拡充10/21  
リニューアル開館 11/2 ⑦  
リニューアル記念神戸市立博物館名品展—まじわる文化、つなぐ歴史、むすぶ美—11/2-12/22 ④  
館外展示 交融之美 神戸市立博物館精品展 台湾 國立故宮博物院南部院区 6/6-9/8 ⑤  
新収品：鶴洲筆「梅に鶯鶯図」「練上手ガラス盃」⑩など

## 2020

特別展 建築と社会の年代記—竹中工務店400年の歩み— 1/11-3/1  
[中止] 特別展 コートールド美術館展 魅惑の印象派 3/28-6/21  
[中止] 兵庫の書展 兵庫県書作家協会創立 70周年記念—2020 令和からの発信—7/23-9/22  
[中止] 開港 5 都市歴史展 9/29-10/4  
特別展 和（なごみ）のガラス—くらしを彩ったびいどろ、ぎやまん 10/3-11/23 ⑥  
[中止] 特別展 ボストン美術館展 芸術×力 10/24-1/17  
特別展 つなぐ TSUNAGU—THE POWER OF KOBE CITY MUSEUM 12/5-1/24  
新収品：「従高野山奥院慈尊院迫路徑之図」など

## 2021

特別展 和田岬砲台史跡指定 100年記念 大阪湾の防備と台場展 2/6-3/28  
企画展 神戸源平巡り—「平家物語」の舞台を訪ねて— 2/6-3/28  
BELCA 賞受賞 3/26  
特別展 東山魁夷 唐招提寺御影堂障壁画展 4/24-6/9  
伊能図上呈 200年記念特別展 伊能忠敬 7/10-8/29  
新収品：「平清盛と家臣」など  
設備工事休館 8/30-

## 2022

設備工事休館 -2/4  
特別展 大英博物館ミイラ展 古代エジプト6つの物語 2/5-5/8  
入館 1,100万人目 4/8  
特別展 スコットランド国立美術館 THE GREATS 美の巨匠たち 7/16-9/25

# 博物館だより

2022-23

No.122

KOBE CITY MUSEUM



神戸市立博物館開館40周年記念特別展  
よみがえる川崎美術館  
川崎正蔵が守り伝えた美への招待—  
2022年10月15日（土）～12月4日（日）



物思いに耽りたずむ男装姿の女官。視線の先には触れ合わせた右手の親指と左手の小指があります。鮮やかな紅衣、繊細な意匠が凝らされた烏紗帽などの描写が目目を惹く本作は、足利將軍家旧蔵の東山御物であり、中国・元時代の人物画の名品です。この「宮女図」は、神戸を代表する実業家・川崎正蔵（1837-1912）の旧蔵品としても知られています。  
この秋、神戸市引にあった川崎美術館を彩った名品の数々が、約100年ぶりにゆかりの地・神戸に集います。

宮女図 (伝恒野王図) [部分]  
伝銭舞拳  
元時代・13～14世紀 個人蔵  
[展示期間：11月15日～12月4日]

# 100年ぶりによみがえる川崎美術館

明治23年(1890)9月6日、現在のJR新神戸駅のあたりに「川崎美術館」-日本初の私立美術館が開館しました。創設者は近代を代表する実業家・川崎正蔵(1837-1912)。川崎造船所(現在の川崎重工株式会社)、神戸新聞社を創立した人物と聞くと、思い浮かぶ方も多いかもしれません。

川崎正蔵は、明治時代以降、西洋文化が流入するなかで、廃仏毀釈や古美術品が海外へ流出する状況を憂い、日本・東洋美術の優品を幅広く収集しました。さらに、そのコレクションを秘蔵することなく、公開するために川崎美術館を創設したのです。

川崎正蔵没後も美術館の活動は続けられましたが、昭和初期の金融恐慌をきっかけにコレクションは散逸、美術館の建物も阪神大水害や震災により残っていません。しかし、川崎正蔵が愛した美術品は国内外の美術館、博物館などに今も大切に守り伝えられています。本展では、約100年ぶりに川崎ゆかりの美術品が神戸に再び集います。

**川崎美術館外観**  
(川崎芳太郎編『長春閣鑑賞』第6集 國華社 大正3年(1914) 川崎重工株式会社蔵)



ぼくぼ 牧馬図屏風 狩野孝信  
桃山時代〜江戸時代初期・16世紀後期〜17世紀初期 個人蔵

かんざんじつとく 重要文化財 寒山拾得図 伝顔輝  
元時代・14世紀 東京国立博物館  
Image:TNM Image Archives  
[展示期間:10月15日〜11月13日]

※展示期間の記載がないものは通期展示



じゆこうねこ 麝香猫図 宣宗  
明・宣徳元年(1426) 個人蔵



いろえぐん ぼんもんへんけいざら 佐賀県重要文化財 色絵群馬文変形皿  
鍋島焼(有田 岩谷川内窯) 江戸時代・1650年代頃  
佐賀県立九州陶磁文化館(白雨コレクション)



あんや 闇夜漁舟図、雪景山水図 与謝蕪村  
江戸時代・18世紀後期 公益財団法人阪急文化財団 逸翁美術館

# 川崎美術館とは?

明治23年9月、神戸布引に開館。大正13年(1924)の第14回の展覧まで活動していました。公開は年に数日、入館できるのは川崎美術館から送付された縦覧券を持つ招待客のみでした。美術館の室内には、現在東京国立博物館に所蔵されている円山応挙の襖絵が飾られていました。本展では、円山応挙の襖絵を用いて、美術館の一部の空間の再現展示も行います。



海辺老松図襖 円山応挙 天明7年(1787) 東京国立博物館  
Image:TNM Image Archives ※東京国立博物館から提供の画像を加工

# 川崎正蔵のコレクションを一堂に

川崎正蔵が収集した美術品の一部は、彼の三回忌に刊行された豪華図録『長春閣鑑賞』からたどることが出来ます。本展では、川崎正蔵が命の次に大切にしたいという重要文化財「寒山拾得図」、明治35年の神戸行幸の際に御用立てられた5双の金屏風のうちの1双「牧馬図屏風」をはじめ、国宝2件、重要文化財5件、重要美術品4件を含む絵画、仏像、工芸品など約80件の作品が会場を彩ります。これらの作品に、実業家・川崎正蔵

の足跡を辿る貴重な資料を加え、約110件を展示します。川崎正蔵から同時代そして後世のコレクターや美術館・博物館に受け継がれ、今日まで大切に守り伝えられた名品の数々。川崎正蔵の功績をたどるとともに、彼が美術品に注いだ情熱を感じとっていただければ幸いです。100年ぶりによみがえる川崎美術館。この貴重な機会をぜひお見逃しなく。



神戸市立博物館開館40周年記念特別展 よみがえる川崎美術館 ―川崎正蔵が守り伝えた美への招待―

# 展覧会スケジュール 2022.10 - 2023.3

2022年 10月 October	11月 November	12月 December	2023年 1月 January	2月 February	3月 March
【休館日】 10/1~14・17・24・31	11/7・14・21・28	12/5~23・26・29~31	1/1~3・10~13・16・23・30	2/6・13・20・27	3/6・13・20・22~31

特別展  
23階

10/15 sat

神戸市立博物館開館40周年記念特別展  
よみがえる川崎美術館 ―川崎正蔵が守り伝えた美への招待― ■10月15日(土)―12月4日(日)

12/4 sun

1/14 sat

3/21 tue

インド近代絵画の精華―ナンダラル・ポースとウペンドラ・マハラティ  
■2023年1月14日(土)―3月21日(火・祝)



国宝 桜ヶ丘銅鐸・銅戈 実物展示

10/15 sat

■10月15日(土)―12月4日(日)

コレクターたちの片鱗

池長孟・南波松太郎・秋岡武次郎

「彼らなくして神戸市立博物館は生まれなかった」と言っても過言ではない。3人のコレクター。彼らの思い入れが強かった旧藏品と、それぞれの才気と情熱を物語る資料で、その足跡をたどりま。

12/4 sun

池長孟旧蔵「万国人物図」表装

昭和時代前期(20世紀)

12/24 sat

■12月24日(土)～2月12日(日)

UKIE(浮絵)

―江戸を魅了した、吸い込まれる空間

江戸の浮世に突如現れた、奇妙な風景画。街並みや芝居小屋の内部が、まるで吸い込まれるように、遠くの一点へとずぼまっています。「浮絵(うきえ)」と呼ばれ、一世を風靡した遠近表現を紹介します。

地図帳をめくる

いくつかの地図をまとめ、書物の形態に整えたものが地図帳です。その歴史は古く、世界各地で様々な地図帳がつくられてきました。当館が所蔵する多彩な地図帳を一堂に展示いたします。

A.オルテリウス「世界の舞台」 1570年



「桜ヶ丘銅鐸・銅戈」発見の記録

―武藤誠コレクション―

昭和39年(1964)に灘区桜ヶ丘町で発見された「桜ヶ丘銅鐸・銅戈」は、当時大きな話題となりました。考古学者の武藤誠氏(1907~1995)により克明に綴られた貴重な調査記録から、発見当時の状況を紐きます。

「桜ヶ丘銅鐸出土状況復元写真(武藤誠氏旧蔵写真)」 昭和39年(1964)

10/18 tue

■10月18日(火)―11月27日(日)

和ガラスの宝庫

当館のガラス工芸品の核ともいえる“びいどろ史料庫コレクション”。和ガラスの名品の中から、18世紀につくられた“びいどろ”や貴重な手彫り羅摩切子などを採りあげます。温もりにみちた、和ガラスの輝きをご堪能ください。

「型吹き草花文淡青色六角ガラス四段重」 正徳4年(1714)箱書き びいどろ史料庫コレクション



11/29 tue

■11月29日(火)―2月12日(日)

投影するガラス

ランプとレンズを用いてガラスに描かれた絵を拡大して幕などに映し出す幻灯機。日本では明治時代以降に普及しました。スライドショーの原型ともいえる不思議な視覚世界を覗いてみましょう。

2/12 sun

「幻灯機」

明治時代中期～大正時代(1889-1926) びいどろ史料庫コレクション



身だしなみのガラス

江戸時代につくられたガラス製品には、櫛や簪などの身を飾るものも少なくありません。あるいは香水や香油などを入れるための容器としても需要がありました。江戸時代から明治時代につくられたガラス製の装飾品から当時のお洒落に注目します。

「ビーズ飾り魚形銀製櫛」 江戸時代～明治時代前期(1772-1889) びいどろ史料庫コレクション



聖フランシスコ・ザビエル 複製展示

2/12 sun

■2月14日(火)―3月21日(火・祝)

2/14 tue

■2月14日(火)―3月21日(火・祝)

古地図で見る近代神戸

1868年に神戸港が開港すると、神戸の街が国内外の人々で賑わいました。街の発展にともなって数多く複製された地図から、近代神戸の様相を読み解きます。

「新撰改正 兵神市街之図 全」 明治13年(1880)



洋画の「なぜ描く? / どう描く?」

―魅せたい・身体

明治以降、日本の画家は油絵の技術を学ぶため、骨格や筋肉を正確に捉える西洋の人体表現に向き合いました。彼らが画家としてどのように人の身体を見つめたのか、その歩みを館蔵品からご紹介します。

百武兼行「裸婦」 明治14年(1881)頃



源氏の英雄セレクション

神戸を舞台とした、生田森・一の谷合戦は源平の武將にまつわる逸話や伝承を数多く生み出しました。後世に描かれた、源義経をはじめとした人気の高い源氏の英雄たちの姿を、館蔵資料からご紹介します。

月岡芳年「義経記五条橋之図」 明治14年(1881)



神戸の歴史展示

神戸の歴史展示 海や港を介して営まれた神戸の歴史と文化交流について、年代別に展示しています。

10/15 sat

■10月15日(土)―12月4日(日)

きらきらしき御仏―神戸伝来の高麗美術

神戸に伝来する朝鮮・高麗時代の仏教絵画や經典をご紹介します。観る者を崇高な世界へ誘う、眩いばかりの金色に彩られた「きらきらしき御仏」の世界をご堪能ください。

市指定文化財 「絹本着色華嚴経变相図(部分)」 朝鮮・高麗時代(13~14世紀) 個人蔵

12/4 sun



12/24 sat

■12月24日(土)～2月12日(日)

南北朝内乱期の神戸を辿る

延元元年(建武3年、1336)に起こった淡川の戦いなど、神戸は南北朝内乱の舞台となりました。それに因んだ館蔵資料や、市内の名所や旧跡から、内乱の様相を辿ります。



歌川芳虎「兵庫合戦遺失之図」 万延元年(1860)

2/12 sun

2/14 tue

■2月14日(火)―3月21日(火・祝)

視えない力の召喚―神戸伝来の密教美術

視えない世界の聖なる存在に働きかけ、現実世界に変化をもたらす修法をおこなう仏教の一派・密教。曼荼羅や不動明王など、神戸に伝来した密教美術の一端をご紹介します。

市指定文化財 「絹本着色両界曼荼羅金剛界」 鎌倉時代(13世紀) 妙法寺蔵



展覧会スケジュール